

2023 年のガス市場の展望

LNG 市場のシフトと安定調達の重要性の高まり

<報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループマネージャー
研究主幹 橋本 裕

本報告の要旨

1. 日本の LNG 平均輸入価格は、2021 年の 100 万 Btu 当たり 10.13 米ドルから上昇し、2022 年 17.3 ドル、2023 年 16.8 ドル程度と見込む。北東アジア向けスポット LNG 価格は、2022 年平均 34 ドル、2023 年平均 36 ドル周辺と高水準となる。
2. 世界の LNG 貿易は、2021 年 3.72 億トンから 2022 年 5%程度増の 3.9 億トンまで拡大。2023 年は 4.3 億トン程度と見込む。タイトな需給バランスは 2023 年も続く。世界の天然ガス需要は、2020 年の 2%減少から回復し 2021 年は 4.5%増加したが、2022 年は横這いないし微減と見込まれる。増加ペースは、ウクライナ戦争とガス価格、パンデミックの影響に左右され、不確実性があり、2023 年以降も従来の見通しを下回る。
3. 2021 年以降、欧州やアジアでガス価格は史上最高水準への高騰を経験している。特に同年 7 月以降は、スポットガス価格が原油等価を上回る状況が続いている。2022 年はウクライナ危機により、ガス・LNG 市場はさらに不安定化要因が増加した。
4. 中長期的な LNG 供給確保に向け、売買契約交渉が活発化しており、新規 LNG 生産プロジェクトへの投資とそれを支える政策実現が期待される。

世界 LNG 貿易動向

5. 欧州、アジアなど、世界ガス価格は、2022 年 8 月のピークから下がったものの、依然高水準が続いている。特に 2022 年後半、欧州の中でも大陸側 TTF 価格の独歩高が特徴である。アジアのスポット LNG は TTF に引きずられ上昇する傾向にある。欧州連合が TTF に上限を設定する動きも起きた。
6. 世界 LNG 貿易の拡大は、2022 年は一部生産設備のトラブルを織り込み、前年比 5%程度の増加に留まる見通しである。2023 年は設備トラブル等ない前提で 9%程度拡大見込み。不確定要因として、景気低迷と高価格に伴う需要抑制、LNG 生産設備の支障、国際紛争に関わる情勢変化がある。

7. 世界の LNG 貿易量は、2022 年最初の 3 四半期間、前年同期比 4.7%増加して 2.9 億トンであった。1-11 月、日本の LNG 輸入量は 6594 万トン、中国が 5693 万トンと、日本が再び世界最大となっている。同じ期間に、供給側では、米国が 7041 万トンを輸出、カタール 7255 万トン・豪州 7235 万トンに迫っている。マレーシア、ナイジェリア、トリニダードで LNG 生産不振があった。

世界の LNG・ガス需要動向

8. 世界のガス市場の 6 割程度を占める OECD、中国、インドのガス市場は、2022 年は北米が増加をほぼ独占、北米増加分と欧州減少分が相殺し合っている。2022 年第 1-3 四半期、中国は 2.0% (55 億 m³)、インドは 4.33% (19 億 m³)、ガス消費量が減少、両国とも発電用ガス消費量減少が顕著である。2023 年は両国とも回復軌道に戻ると見込まれる。
9. 世界 LNG 市場で欧州の比重が拡大している。欧州が引き取り増加し、日本、中国の引き取りが減少した。特に米国産 LNG が、アジア向けから欧州向けにシフトした。2023 年は LNG 貿易増加分を欧州・中国その他アジアが分け合うこととなる。
10. ロシア産パイプラインガスの欧州連合向け輸出は、2019 年までの月間 1000 万トン (LNG 換算) 以上の水準から、2020 年以降は様々な背景で基本的に低下傾向をたどってきた。2022 年に入ってから、ウクライナ危機深刻化の下で、ロシアが大幅に供給カットしたため激減した。
11. 米 LNG 輸出中の欧州連合+英国比率が 2021 年第 1-3 四半期の 26%から、2022 年第 1-3 四半期は 63%に増加。アジア比率は 50%から 23%に低下。米国の LNG 輸出量で豪州、カタールに肉迫、米メキシコ湾が世界 LNG の最重要拠点化している。米国ガス市場では、ヘンリーハブ価格がシェール革命後の最高水準に上昇した。
12. 当面の LNG・天然ガス高価格と供給不足感により、LNG 調達活動、開発・建設活動が活発化する期待が高まる。他方、過去投資決定分の中、ロシア案件実現は不透明化している。LNG 輸送船舶建造市場は既に活況となっているが、必要な時期に船腹が確保できるか、輸送最適化可能性も検討が必要になる。

日本国内ガス市場

13. 2017 年 4 月のガス小売市場完全自由化以降、大都市地域を中心に、供給者スイッチングは継続している。2022 年 4 月に販売量・需要家件数でいずれも 6 割を占めてきた大手 3 社の導管部門法的分離が実施された。

以上